様式３（学校評価表と合わせて学校評価計画書）

【４月】

学 校 評 価 趣 意 書

令 和 ４ 年 ４ 月 １ 日
尾道市立美木原小学校

１　学校内外の状況

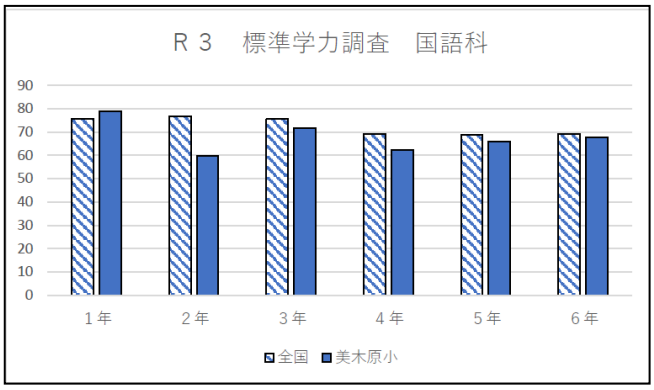
（１）児童について

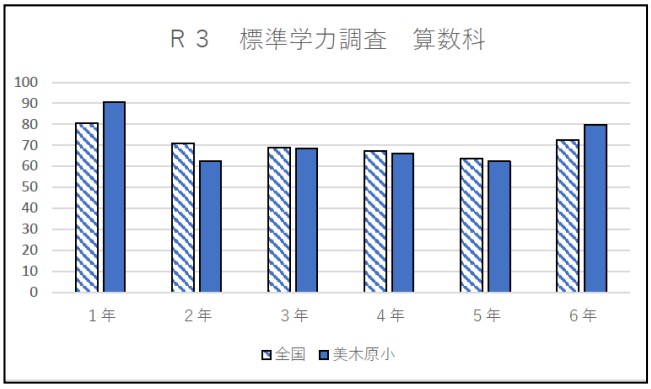
本校は，平成２９年４月に尾道市北部４校が統合し，美木原小学校として開校し，６年目を迎える。児童数１３４名，学級数８学級（普通学級６，知的障害特別支援学級１，自閉症・情緒障害特別支援学級１），校区は，西は三原市，東は福山市に隣接し，東西に広くバス通学者が約５割いる。

統合６年目を迎えた今は，児童の友達関係も深まり，落ち着いた学校風土を作ることが出来ている。すでに統合経験者は全員卒業し，第１回入学式での新入生が今年６年生となった。４地域につながりを深めることを念頭に組織されていた育友会も，地域の枠組みを解体し，学年の輪を構築する組織編成とし，美木原小学校区としての団結が高まっている。

「自分たちで創る」をテーマに，児童会活動を中心として活動を始めて４年目となり，児童自らが学校生活を楽しくよりよくするための取組を企画，運営するということを始め，児童会と委員会がコラボレーションした生活指導や集会等が美木原小学校の伝統となっている。昨年度は，この取組を「おのみちきらり賞」として尾道市教育委員会より表彰を受けることができた。しかし児童アンケートでは，児童の自己有用感は，上半期：９０．２％，下半期：８４．７％と徐々に低下してきている。コロナ禍ではあるが，様々な児童会の取組を企画した児童も，それに参加した児童も，双方向で「やってよかった」などの満足感や充実感を味わわせることが必要である。

学力については，「考える　伝え合う力」をキーワードに授業改善に取り組み，学校図書館を活用し，図書資料や新聞を情報源や発信方法として活用することも継続して取り組んでいる。国語科においては，昨年度よりフレームリーディングの読みの手法を取り入れた指導を実践してきた。文章全体をフレームとして捉え，俯瞰→焦点化→統合の三つのステップで全体を読み解くことで，物語文や説明文の型を理解し，初見の文章の読み取りでもフレームを活用できるように取り組んだ。この指導で身につけた読みの力は，初見の活用テストを用いて汎用力を評価した。昨年度は単元末テストも活用テストも校内の平均通過率が全国平均を上回ることができた。しかし，１２月に実施した国語科の標準学力調査では，以下のグラフの通り，１年生以外校内平均通過率が全国平均を下回った。





一昨年度同様，初見の文章で正しく問いが理解できていないことや，目的に応じて正しく情報を取り出すこと，読み進めるのが遅いことによる無回答などに課題がある。他教科や日常生活の中でも既習したことを意識して文章全体をとらえたり，必要な情報を取り出したりして活用させていく必要がある。

算数科は，ほぼ全国平均と同様の結果であった。統合加配の講師と TT を組んで指導に当たってきた成果であると考える。しかし，２年生は国語科も算数科も全国平均を大きく下回った。本年度は，統合６年目となったため統合加配はなくなったものの，低学年の基礎学力の底上げをねらい，学習支援講師を週に１２時間いただくことができた。低学年の指導に力を入れていく。

３年前から取り入れている思考ツールについて，児童アンケートによる情報活用力の自己評価では，肯定的評価が上半期８０．３％，下半期８１．６％という結果であった。徐々に児童の意識と実践が上向いている様子がみられる。今年度も様々な教科・領域の中で積極的に活用していくよう取り組んでいく。

（２）教育活動

昨年度の研究においては，つけたい資質・能力を，「言語力」「情報活用力」とし，「考える」「伝え合う」学習を進める有効な手段として，学校図書館の利活用，NIE，思考ツールの３つを授業に適宜取り込み，「フレームリーディング」の手法を用いた指導法を取り入れて授業改善を行ってきた。NIE 教育では，昨年度，広島県の NIE 教

育奨励賞を受賞することができた。開校以来３度目の受賞である。
　今年度は，美木中学校区（美木中学校，三成小学校，美木原小学校）がこれまで以上に連携をとりながら教育活動を進めていく。児童につけたい資質・能力を「コミュニケーション力」「情報活用力」「表現力」の三つとし，小中９年間を見通した児童生徒の育成を目指していく。学校図書館の利活用，NIE，思考ツールも継続して実践していく。
　昨年度までの課題を踏まえ，今年度の研究主題を「考える，伝え合う力の育成」副題を「フレームリーディングを活用した国語科の授業づくり」と設定した。昨年度まで実践してきた様々な取組を継続して行うとともに，国語科ではフレームリーディングの指導法をさらに練磨し，学年に応じてフレームを積み重ね，文章構成や内容を捉える力を育成していきたい。その上で，自分の考えを持ち，人との関わりの中で伝え合う力を高め，広げることができる児童を育成していきたい。
　生活面では，今年度も，学習を支える学校生活を自分たちで創る「生活を創る」取組を継続し，児童の主体的な学びを育てていく。

（3）教員集団
　本校の教職員集団は，年齢や経験のバランスがとれている。低・中・高学年のブロックで，若手教職員と指導教員の組み合わせで担任を編成できている。今年度，統合支援等の非常勤等の配置がなくなったが，学習支援講師と特別支援学級複数指導講師の加配をいただいている。若手の教職員もそれぞれ一役を担い，意欲的にアイディアを出して教育活動に取り組んでいる。また，協働的に業務をすることができることが強みである。「自分たちで創る」という学校づくりの基本は共有化されている。
　今年度も学校評価と業績評価をリンクさせ，教職員一人一人が学校教育目標達成へ向けた具体的な実践が行えるよう，年度初めに，教科指導内容と具体的指導方法を共有化し，指導の学年差が生じないように留意する。

（4）教育環境
　今年度は「読書活動推進指定校」の指定が外れたが，学校図書館環境の整備や新聞購読は継続していく。今年度もこれまで培ってきた読書活動やＮＩＥの取組を土台として，学力向上の取組を進めることができる環境の構築に努めていく。また，今年度も中学校区の連携教育を継続し，美木中・三成小と学習指導や生徒指導の教育方針を揃えて指導を行うことで，義務教育９年間の指導の連続性を図っていく。今年度も，小中連携加配が措置され，美木中学校の外国語教師が，５・６年生に週２時間の外国語科の指導を行うこととなった。このことは，児童の外国語の理解が進むだけでなく，中学校との連携の強化や中１ギャップの解消にもつながると考える。

２　ミッション

小中連携教育を核とした確かな学力定着の取組の充実と発展

３　ビジョン

○　児童の主体性を育み，未来につながる学力をつける学校
○　幼・小・中の連携による学びの連続性を大切にする学校
○　家庭・地域とともに，子供の育ちを考える学校

４　重点課題

　つけたい資質・能力を学習・生活の基盤となる「コミュニケーション力」「情報活用力」「表現力」とし，次の２点の姿を目指して，教育活動を推進する。
　◆自ら課題を発見し，探究的に学ぶ子供　◆自分の考えを自分の言葉で発信する子供
　課題の取組として，生きる力の基盤となる「豊かな言葉と心を育む」読書活動を教育活動の土台として，学習と生活の両面から児童の主体性を育てる。
　「学びを創る」・・・「考える，伝え合う」力を育成する授業改善
　「生活を創る」・・・児童自らが学校生活を創る特別活動の充実－児童会活動・学級活動－